ODA 政策協議議題

1) 議題案名：リオ+20 における緑の未来イニシアティブ発表と再生可能エネルギー支援について

2) 議題の背景：6月20日、玄葉外務大臣は、リオ+20 本会議での演説の中で「緑の未来イニシアティブ」を発表した。今後3年間で、緑の協力隊・再生可能エネルギー協力で30億ドル、防災協力で30億ドルの計60億ドルの国際協力を柱としている。具体的な再生可能エネルギーの協力額は不明だが、2009年度の再生可能エネルギー関連 ODA がわずかに6500万ドルだったことを考えれば、大幅な増額となる可能性が高く、このような野心的なコミットメントを歓迎したい。

参考1：玄葉外務大臣演説

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/rio_p20/fm_speech_jp.html

参考2：ODA 分野別開発政策・エネルギー

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/bunya/energy/statistic.html>

参考3：平成23年度 NGO・外務省定期協議会「第1回 ODA 政策協議会」（2011年7月11日）協議事項2：原子力発電・自然エネルギー関連 ODA について

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/taiwa/oda_seikyo_11_1.html

3) 議題に関わる問題点（議題に上げたい理由）：

持続可能な開発を実現するために再生可能エネルギーの大幅な拡大は不可欠であるが、リオ+20の成果文書でも掲げられている通り、すべての人々へエネルギーアクセスを確保することも重要なことである。「緑の未来イニシアティブ」が再生可能エネルギーの拡大のみに視点が置かれ、アクセスについて何も触れていないことは片手落ちとも考えられる。また、再生可能エネルギーの中には、深刻な環境・社会影響をもたらす大規模水力発電ダムや大規模な土地利用転換を伴うバイオ燃料等も含まれる可能性もあるが、「緑の未来イニシアティブ」の中では、このような発電を拡大すべきではない。

4) 外務省への事前質問（論点を詰めるために事前に確認しておきたい事実関係など）：

1. 緑の未来イニシアティブで約束された支援額は「新規のかつ追加的な ODA」か。既存の ODA 内の付け替えか。
2. 緑の未来イニシアティブの下で創設される「緑の協力隊」では、どのような技術支援を想定しているか。

3. 緑の未来イニシアティブにおいて、再生可能エネルギーへの協力はどの程度の金額積み上げを想定しているのか。
4. 再生可能エネルギーへの協力で想定されているエネルギー源は何か。大規模水力や大規模バイオ燃料は含まれるのか。また大規模水力、大規模バイオ燃料開発への協力を拡大する方針はあるか。
5. 緑の未来イニシアティブの結果、エネルギー関連 ODA における化石燃料から再生可能エネルギーへのシフトはどの程度進むと考えられるか。
6. 途上国におけるエネルギーへの協力においては、遠隔地や農林漁村へのコミュニティへのエネルギーアクセスの拡充が重要であると考えますが、緑の未来イニシアティブにおいて、エネルギーアクセスの拡大への貢献は重視されるのか。
7. 緑の未来イニシアティブの対象案件の公開、フォローアップ、評価の方法について教えてください。

5) 議題に関わる論点（定期協議会場で主張したいことや、外務省に確認しておきたいと現段階で考える点）：

※外務省からの事前質問の回答によって変更することは可能です。

氏名：田辺有輝

役職：プログラムコーディネーター

所属団体：「環境・持続社会」研究センター(JACSES)

連絡先：tanabe@jacses.org

氏名：柳井真結子

役職：気候変動・開発金融担当

所属団体：国際環境 NGO FoE Japan

連絡先：yanai@foejapan.org